

はしがき

経済のグローバル化に伴い国際取引は今日ますます活発化し、かつ複雑化している。そのため、国際取引から生じる法律問題を総合的に研究・教育する国際取引法の重要性は、従来にも増してますます高まっている。すでに多くの学部、大学院、ロースクールのカリキュラムに、国際取引法が正式科目として取り入れられているのもこうした事情を反映するものであろう。

国際取引法は、憲法や民商法などの伝統的科目とは異なり、「国際取引法」という単一の制定法（法典）が存在しているわけではない。そのためもあって、現状では国際取引法の対象や内容はきわめて多様性に富んでおり、これまで刊行された教科書の構成もさまざまである。

本書は、国際取引法を「国際取引、すなわち、国境を越えた、物品・資金・技術の移転、役務の提供から生じる法律問題を規律する法をいう」と定義したうえで、かつて私が編者をつとめた法律文化社の『NJ 現代国際取引法講義』の基本的構成に従い、問題指向型アプローチをベースにしなが、初学者にもわかりやすく、利用しやすい、バランスのとれた入門テキストを目指そうとしている。そしてその趣旨を反映させるために、いくつかの工夫をした。まず、ケースを使った具体的叙述に心がけるようにし、1章に3つ程度の設例を使うことを原則としている。つぎにコラムを使って、判例、条約、論点などの解説を行うとともに、簡単な契約書のひな形なども適宜取り入れることとした。

本書が国際取引法のわかりやすく、利用しやすい標準的な教科書として、広く学生諸君や実務家の皆さんに利用されることを期待している。

執筆は、関西を中心に、それぞれの分野に造詣の深い方々をお願いした。お忙しい中をこころよくご執筆頂いた皆様に厚く御礼を申し上げたい。また企画当初から編集その他に多大のご協力、ご支援を頂いた法律文化社の秋山泰氏と小栢靖子氏に心から謝意を表したい。